

で一般の彼があえて飛び込むことは生半かな覚悟でできることでもなく、いわば大変な冒険といわねばなるまい。近年ジャズメンとされる人達がクラシック系の人と共演したり、またこの両種の音楽の結合を試みることは数多いが、それはほとんどが、オリジナルな作品、または「プレイ・パッサ」的処理をほどこしての上であり（今回、渡辺がくアフリカ組曲>として発売したのはこれに属する）、いわゆる古典的な作品をジャズとの関連なしに純粋に演奏家として世に問うて一応の評価を得たのは、ベニー・グッドマンくらいであろう。こうした厳しさを充分承知の上で飛び込んだはずの渡辺に対しては、私はジャズからの一人の応援者として見守るほかないのは当然である。したがって彼の成果に対しての評価はもちろんクラシック畑から寄せられるべきであり、私には云々する資格もないので、単に彼の取り上げた曲目を御紹介するに止めるが、その一つはモーツァルトのくフルート協奏曲第2番ニ

長調K314>であり、いま1曲はフランスの現代作曲家ビュール・マックス・デュボアのくアルト・サクソと管弦楽のディヴェルティメント>であった。いうまでもなく前者は代表的フルート曲として有名であり、後者はサクソフォンを主役とする軽妙な作品ながら一面難曲として知られるものである。その夜会場に集ったクラシック・ファン（ジャズ関係と思われる人達が少なかつたのは寂しかったが）の人たちから送られた心からの暖い拍手はまったく嬉しかったし、また終曲のくアフリカ組曲>では、マイ・ペースに戻った渡辺に対し、この種の会場では珍しくも手拍子で和した情景は胸に迫るものがあつたことは、ぜひその報告をせねばなるまい。

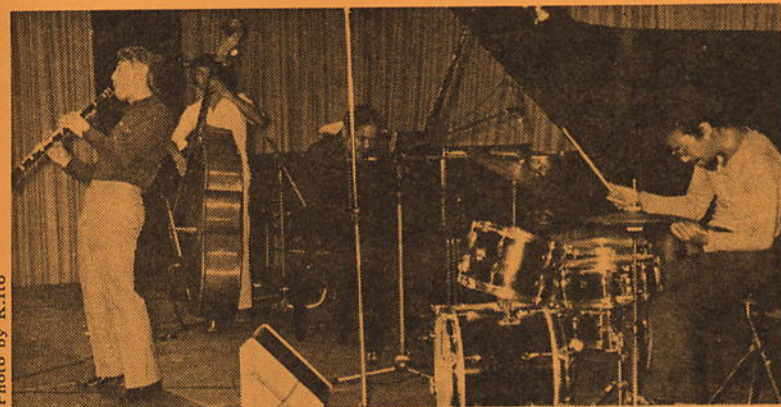
ともあれ来年には再び福村のホーム・グラウンドともいべき名フィルとの共演を果すという渡辺貞夫に対して一人でも多くのジャズ・ファンが会場に足を運ばれることを期待したいものである。（内田 修）

コルトレーン、デフランコを敬愛し、現在もモダン・ジャズに情熱を持ち続けていることを知って、過去8年間、定期的に日本人の生演奏を主体に続けて来た名古屋の「ヤマハ・ジャズ・クラブ」で、彼のモダン・ジャズへの再挑戦を実現すべく企画したのが、このコンサートである。そこで北村に、現在最も期待し得る若手3人によるリズム・セクションを提案したところ、最初は初顔合せということでややためらったものの、数日後には快諾の返事を得、プログラムを構成したのであつた。当日会場を埋めつくしたファンはこの希望は充分満足できたと信じている。北村のいう『うたもの』で構成されたその曲目は、いずれもだれもが良く知る親しみやすいものであり、北村と慶応での同期とあって友好的に司会を引受けてくれたソノ君の紹介の後、北村自身の軽妙な語り、リードされた場内は暖い雰囲気包まれつつ、しだいにスイングーな熱演へと盛り上りを見せることになった。

演奏は前半ではフレッシュな益田～鈴木(良)～日野のリズム・サポートに乗り、ときにデフランコのなプレイで微笑ましさを感ぜさせつつも、美しい音色と自信に満ちたモダンなフレーズで完全に圧倒し、彼に匹敵するモダン奏者はデフランコやトニー・スコットの現状から見て、ロルフ・キューン、ベリー・ロビンソン、フィル・ウッズくらいではないかとまで考えさせられた。続く後半は菊地～鈴木(勲)～渡辺のリズム陣をバックに北村にとっては手馴れたスイングとあって、関心と焦点は菊地の徹底したアール・ハインズの演奏に集中したのは当然である。

菊地は、これに代えて日頃の激しさと一変し、楽しげにスイング・ピアノの粋を披露し、彼の現在がジャズのルートをつまえた上でのものであることをあらためて感銘できたといえよう。いずれにせよ、北村のモダン・プレイが、今後共、各地のファンに迎ええられるチャンスに恵まれることを望みたいものである。（内田 修）

## 北村英治と“モダン・ジャズ”



●10月14日 ●名古屋ヤマハ・ホール ●出演=北村英治(cl) 菊地雅章(p) 鈴木勲(b) 渡辺文男(ds) 益田幹夫(p) 鈴木良雄(b) 日野元彦(ds)

北村英治が現在最も秀れたテクニックを持つ器楽奏者の一人であり、またスイング・クラリネット・プレイヤーとして世界第1級の安定した実力の持主であることは今さら言うまでもない。たしかに彼の現在率いているグループは主としてスイング・ジャズを指向しているために、一般的にはモダン・ジャズとは無縁の存在と受け取られがちで

あるが、かつては徹底的にパディ・デフランコを追究し、モダン・ジャズとして高く評価できるソロ・プレイを残したことも充分御承知のはずだ。ありていにいえば私もその一人であり、何とか彼に今一度モダン・クラリネットを演奏して貰いたいものだと考え続けて来た。昨年発行された本誌の「日本ジャズ人名辞典」で、北村がパーカー